

精神科領域専門医研修プログラム

■ 専門研修プログラム名： 香川大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

■ プログラム担当者氏名： 今井 秀記

住 所： 〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸 1750-1

電話番号： 087 - 891 - 2167

F A X： 087 - 891 - 2168

E-mail： psy@med.kagawa-u.ac.jp

■ 専攻医の募集人数：（ 7 ）人

■ 応募方法：

履歴書を下記宛先に送付の上、面接申し込みを行う。

宛先：〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸1750-1

精神神経医学講座

事務担当： 大高 紀代美

TEL：087-891-2167

FAX：087-891-2168

E-mail：psy@med.kagawa-u.ac.jp

■ 採用判定方法：

科長・副科長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴

本施設群には12の連携施設があり、典型的には1年目は基幹施設で研修し、2～3年目で希望に応じて連携施設をローテートして研修する。専攻医は年7名程度を予定している。基幹施設である香川大学医学部附属病院は、県内唯一の大学病院であり、精神科病棟を持つ総合病院として、身体疾患を合併する精神疾患患者の治療、リエゾン・コンサルテーション、緩和ケアなどを経験することができる。また香川大学には認知症疾患医療センターを併設しており、認知症の診療や臨床研究にも力を入れている。さらに、「子ども家族・こころの診療部」において、心身症や発達障害、神経症性障害など児童の診療も行っており、児童精神医学から老年期精神医学まで幅広く経験する機会を有している。

研修開始後、専攻医は上級医の指導のもとで入院患者の主治医を担当し、コメディカルスタッフ（看護師、臨床心理士、薬剤師、栄養士、精神保健福祉士など）とチームを形成して治療に当たる。また、上級医の指導のもとで他科からの往診依頼に対応する。さらに研修開始から数か月後には外来診察も担当する。毎週行われるカンファレンスでは、入院および外来新患症例に関して詳細な検討が行われる。このように、精神科医に必要な知識や経験を習得する研修システムが整備されている。

連携施設には、小豆島病院、三光病院、大西病院、馬場病院、いわき病院、こころの医療センター五色台、三船病院、丸亀病院、清水病院という、香川県内の主要な単科精神科病院が参加している。また、四国こどもとおとなの医療センターには児童精神科があり、全国でも少ない児童精神科病棟がある。西香川病院の精神科は認知症治療をメインとしているモデル的施設である。永康病院は地方にある精神科をもつ一般病院である。専攻医は希望に応じて上記の研修先を柔軟に選択することができ、多くの症例を経験することができる。

香川県という土地柄、大学病院を含めて各施設群は当然に地域医療にも深く関与している。そのため、外来患者・入院患者に関係なく、全ての患者を疾患についてだけでなく、生活環境等も含めて多角的にとらえ、治療や精神医療の在り方についても熟考することのできる研修プログラムとなっている。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

■ プログラム全体の指導医数：41人

■ 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患	年間
F0	3 3 2 8
F1	6 5 3

F2	5 1 2 8
F3	2 4 2 9
F4(F50)	1 8 2 6
F4,F7,F8,F9	9 6 9
F6	1 5 4
合計	1 4 4 8 7

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：香川大学医学部附属病院（香川大学病院と略す）
- ・施設形態：公的病院
- ・院長名：横見瀬 裕保
- ・プログラム統括責任者氏名：中村 祐
- ・指導責任者氏名：中村 祐
- ・指導医人数：（ 6 ）人
- ・精神科病床数：（ 26 ）床
- ・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	6 9 6
F1	1 8
F2	2 0 9
F3	3 0 0
F4(F50)	4 0 6
F4,F7,F8,F9	1 5 5
F6	2 7
合計	1 8 1 1

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は一般病床 577 床を有する大学病院である。精神科は閉鎖病棟であり 26 床を有

している。高度専門医療機関として、また認知症疾患医療センターとして、他病院で診断に苦慮する認知症症例や、難治症例、また、器質因の検索、集学的な治療を有するような摂食障害などの治療にあたっている。思春期症例、認知症症例、身体合併症の治療、リエゾン・コンサルテーション、緩和ケアなど幅広く経験できる特徴がある。

B 研修連携施設

① 施設名：小豆島病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：村田 昇
- ・指導責任者氏名：村田 昇
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（184）床
- ・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	170
F1	8
F2	170
F3	80
F4(F50)	56
F4,F7,F8,F9	5
F6	2
合計	14487

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は香川県小豆医療圏唯一の精神科病院であり、184床の精神科病床を有しています。地域全体の精神科疾患を経験することができます。香川県から認知症疾患医療センター、地域拠点病院に指定されており、精神科救急、認知症を中心とした様々な症例の経験が出来ます。都会ではできない地域医療を経験できます。医療圏域において認知症の診断、治療、マネジメントについても実践的な経験を積むことができます。

② 施設名：医療法人社団 光風会 三光病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：市川 正浩

- ・指導責任者氏名：市川 正浩
- ・指導医人数：（ 3 ）人
- ・精神科病床数：（ 320 ）床
- ・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	3 8
F1	1 2 3
F2	3 2 6
F3	5 9
F4(F50)	6
F4,F7,F8,F9	1 1
F6	1
合計	5 6 4

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

本院は、病床数 320 床のうち、急性期 32 床、精神一般 70 床、療養病棟 218 床、香川県東部では唯一の単科の精神科病院であり、県内はもとより県外の精神科の症例が集まりやすい環境にあります。統合失調症を中心にアルコール依存症の専門チーム医療を行っており、日精協が行っている『アルコール依存症臨床医等研修』の実習実地医療機関です。

日精協の研修を受けていただければ、その後、本院において断酒会の出席（半日研修）のみで『実習修了証明書』を発行しております。これらは、『重度アルコール依存症入院医療管理加算』で診療報酬上点数にもなり、本院の特徴でもあります。院内でも毎週、月木は断酒会を開き、県内外から 100 名程の参加者が来院されています。

また、近年増加傾向にある認知症に関しては入院治療、及び、長期療養に関しては老人保健施設で対応しています。精神科外来としては訪問看護及びデイケア、デイナイトケアで継続治療を行っております。

③ 施設名：医療法人社団 玉藻会 馬場病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：馬場 浩一
- ・指導責任者氏名：馬場 信二
- ・指導医人数：（ 2 ）人

・精神科病床数：(427) 床

・疾患別症例数 (年間)

疾患	年間
F0	1 4 3
F1	1 4 2
F2	1 0 3 3
F3	2 8 1
F4(F50)	1 1 4
F4,F7,F8,F9	7 6
F6	1 2
合計	1 8 0 1

・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

427 床の単科精神科病院で、急性期病棟 2 単位、認知症治療病棟、精神療養病棟、身体合併症病棟があり、多彩な疾患の経験が可能である。更に措置入院数も県下で最多であり、応急入院指定病院でもあるので経験により特定医師として特例措置も可能である。またクロザピンの CPMS 登録病院でクロザピンの症例数も豊富である。刑務所や児童施設への見学も可能である。

④ 施設名： 医療法人社団 いわき病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：渡辺朋之

・指導責任者氏名：松岡美穂

・指導医人数：(2) 人

・精神科病床数：(237) 床

・疾患別症例数 (年間)

疾患	年間
F0	7 9 1
F1	3 0
F2	3 1 5
F3	2 5 0

F4(F50)	1 6 9
F4,F7,F8,F9	2 3
F6	1 0
合計	1 5 8 8

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、私立の単科精神科病院で、認知症・統合失調症・気分障害の治療に重点を置いています。認知症疾患医療センターを併設しており、認知症鑑別の経験を多数積む事ができます。鬱病の治療判断の補助に、光トポグラフィーを導入しています。身体合併症・認知症に対応するため、MRIを導入し、早期治療に努めています。重度認知症デイケア・精神科デイケアを有していますので、認知症・統合失調症とも入院から退院への実践的治療経験を積む事ができます。

⑤ 施設名：医療法人社団 五色会 こころの医療センター五色台

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：佐藤 仁
- ・指導責任者氏名：佐藤 仁
- ・指導医人数：（ 5 ）人
- ・精神科病床数：（ 3 2 6 ）床
- ・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	1 4 1
F1	3 0
F2	2 4 6
F3	5 2
F4(F50)	2 1
F4,F7,F8,F9	2 2
F6	1 0
合計	5 2 2

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

地域における精神科医療の中核を担っており、精神科の急性期から亜急性期、回復期、慢性期、社会復帰まで幅広い領域をカバーしている。サテライトクリニックでは思春期外来に力を入れており、入院先となる当院では思春期を専門とする指導医の下、子どもの症例も多く経験できる。地域の精神科救急にも対応し、措置入院、医療保護入院など非自発入院の症例も多い。身体拘束、隔離など行動制限を要する場面もあり、精神科医療全般に渡る幅広い知識や技能を取得するための症例や治療場面を経験することができる。

また、中四国最大規模のデイナイトケア施設やそこに併設された「カフェ プルミエ」、「J's セラピーガーデン」など地域との交流の場を作り患者の社会復帰に役立てる多彩な社会復帰プログラムや地域支援にも取り組んでおり、地域連携についても学習することが可能である。

併設施設等：

応急指定病院、精神科急性期治療病棟、精神療養病棟、特殊疾患病棟、精神科電気痙攣療法、アルコールリハビリテーションプログラム、集団精神療法、精神科作業療法、SST、精神科ショートケア・デイケア・デイナイトケア(170名対応可)、重度認知症デイケア、精神科訪問看護ステーション、就労継続支援B型、精神障害者グループホーム(共同生活援助 123床)、地域生活支援センター、サテライトクリニック(坂出市・高松市)、精神科救急輪番、医療観察法指定通院医療機関

⑥ 施設名：医療法人社団 三愛会 三船病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：三船 和史
- ・指導責任者氏名：川田 浩
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(330) 床
- ・疾患別症例数 (年間)

疾患	年間
F0	1 6 3
F1	1 0 5
F2	8 6 9
F3	3 1 4
F4(F50)	2 2 4
F4,F7,F8,F9	6 3
F6	1 5

合計	1753
----	------

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は定床 330 床（うち、精神科急性期治療病棟 44 床、精神療養病棟 120 床、認知症治療病棟 48 床、特殊疾患病棟 60 床、精神病床 58 床）を有する単科精神科病院である。急性期から慢性期の精神科リハビリテーションまで多様な精神疾患の診療を行っている。修正型電気けいれん療法を実施しており、クロザリルの登録医療機関でもあり、難治例の治療も行っている。刑事精神鑑定や医療観察法鑑定の件数も多く、それを通じて司法精神医学の症例を経験することができる。また、デイケア、デイナイトケア、訪問看護のみならず、三愛会コミュニティケアセンターを設置し、地域生活支援に積極的に取り組んでいる。

⑦ 施設名：香川県立 丸亀病院

- ・施設形態：公的単科精神科病院
- ・院長名：長楽 鉄乃助
- ・指導責任者氏名：伊藤 嘉信
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 156 ）床
- ・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	62
F1	53
F2	805
F3	482
F4(F50)	348
F4,F7,F8,F9	88
F6	13
合計	1851

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

香川県の公的単科精神科病院であり、精神科急性期治療病棟（男女混合）50 床、精神病棟 106 床（男性病棟：54 床、女性病棟：52 床（結核病床含む））の計 156 床

を有する県の精神科救急の中核を担っている病院である。診療対象としている精神疾患は、内因性精神疾患、ストレス関連障害、薬物・アルコール関連障害、認知症を含む器質性疾患など多種に及び、その他児童思春期外来も設けており、精神疾患を幅広く研修できるのが特徴である。

また、香川県立中央病院に週1回、医師を派遣してリエゾン・コンサルテーションも行っており、他科との連携についても経験することが可能である。

⑧ 施設名：国立病院機構 四国こどもとおとなの医療センター

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：中川 義信
- ・指導責任者氏名：中土井 芳弘
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(22) 床
- ・疾患別症例数 (年間)

疾患	年間
F0	1
F1	1
F2	1 2
F3	1 2
F4(F50)	9 6
F4,F7,F8,F9	2 9 1
F6	3
合計	4 1 6

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当科では幼児から高校生年齢までを対象とし、児童思春期精神科病棟22床を有し、発達障害をはじめ、統合失調症や気分障害、摂食障害といったさまざまな精神疾患の萌芽に触れ、見立てや治療について学ぶとともに、虐待・不適切養育といった家族病理の問題やいじめ・不登校といった学校の問題を評価し、対応を学ぶことができる。また、重症心身障害児者病棟を有しており、重度精神遅滞の強度行動障害への対応を経験できる

⑨ 施設名：三豊市立 西香川病院

- ・施設形態：公設民営一般病院
- ・院長名：大塚 智丈
- ・指導責任者氏名：大塚 智丈
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 60 ）床
- ・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	690
F1	1
F2	14
F3	11
F4(F50)	17
F4,F7,F8,F9	3
F6	1
合計	737

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は病床 150 の公設民営型一般病院であり、精神科病棟 60 床の他、回復期リハビリ病棟 60 床、介護療養病棟 30 床を有し、高齢者中心の医療を行っている。認知症疾患医療センターを併設し、重度認知症患者デイケアも実施しており、精神科医療においては認知症患者が主な対象となっている。設立者である自治体の委託により認知症初期集中支援チームをセンター内に設置し、また医師会運営の長所を生かして、地域における認知症医療連携の中心的存在となっている。認知症の診断、治療、マネジメントなどについて実践的経験を積むことが可能である。

⑩ 施設名：三豊市立 永康病院

- ・施設形態：公的一般病院
- ・院長名：潟中 淳一
- ・指導責任者氏名：奥平 篤之
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 59 ）床

・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	2 2 8
F1	1 5
F2	2 0 5
F3	2 1 9
F4(F50)	1 8 5
F4,F7,F8,F9	2 8
F6	2 6
合計	9 0 6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は精神科病棟 59 床の他に一般病棟を 92 床、療養病棟を 48 床有しており、精神科病棟にて精神保健福祉法による任意入院、医療保護入院という入院形態の他、症例によっては身体科との併診により一般病棟や療養病棟にて入院治療を行うこともできる。扱う疾患に制限はあるが身体合併症の治療を経験できる。

また、地域に精神科医療機関が少ないせいもあり、保健所との連携や精神保健相談等相談業務も体験することが可能である。

⑪ 施設名：一般財団法人 大西精神衛生研究所附属 大西病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：吉田 穂束

・指導責任者氏名：吉田 穂束

・指導医人数：（ 1 ）人

・精神科病床数：（ 3 7 4 ）床

・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	1 3 7
F1	6 6
F2	5 3 8
F3	1 4 4

F4(F50)	1 2 0
F4,F7,F8,F9	1 9 8
F6	3 3
合計	1 2 3 6

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

本院は、総病床数 374 床のうち、102 床が精神療養病棟、272 床が精神病棟で、設立は大正 14 年と古く四国で最も早く開設された精神科病院であります。そのため、精神科病院としての認知度は高く、急性期、慢性期、軽度、重度を問わず様々な精神疾患の症例が集まる状況にあります。

また、平成 23 年 10 月からは認知症疾患医療センターとしての指定を受け、精神疾患に加え、認知症及び認知症の様々な周辺症状に関する症例も多数経験できるようになっております。

外来は週 4 回のデイケア、ショートケアの開催による自立に向けた治療と支援を行い、入院においては長期的な治療に加え、自立に向けた退院促進支援とグループホームでの療養等を行っております。

⑫ 施設名：医療法人 清和会 清水病院

・施設形態：私的単科精神科病院

・院長名：辻 健三

・指導責任者氏名：辻 健三

・指導医人数：(1) 人

・精神科病床数：(1 6 1) 床

・疾患別症例数（年間）

疾患	年間
F0	6 8
F1	6 1
F2	3 8 6
F3	2 2 5
F4(F50)	6 4
F4,F7,F8,F9	6
F6	1

合計	811
----	-----

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は香川県の西の端、三豊・観音寺地区の唯一の単科精神科病院で 161 床（精神療養 53 床、精神一般 108 床）の病床を有し、グループホーム、大規模デイケアを併設しています。アルコール症にも取り組んでおり、毎週金曜日と第 2 火曜日に断酒会が開催されています。又最近は、養護老人ホーム等から紹介される認知症の方の入院が増えてきていますが、多くの方が元の施設に復帰されています。当院は病床数の割に外来の患者数が多く、発達障害から認知症まで、いろいろの精神疾患を経験出来ます。精神科救急や措置入院の鑑定等も体験出来ます。香川県西部と愛媛県東部の精神科医療に貢献していると自負しています。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

1 年目：

基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析・精神力動療法、森田療法のいずれかのカンファレンス、セミナーに参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。

2 年目：

基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3 年目：

指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。コンサルテーションリエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。

4) ローテーションモデル

典型的には1年目に基幹病院である香川大学病院で、精神科医としての基本的な知識を身につける。さらに、身体合併症症例、児童思春期症例、認知症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と習得していく。

2～3年目には各連携施設において、単科精神科病院で治療されている難治・急

性期症例、慢性期症例などの他、児童思春期症例、認知症症例などを担当し、治療手技、精神保健福祉法や社会資源、地域医療の実情等についての知識と経験を深めていく。3年間の研修先と研修順序については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。例えば、最初に連携施設で研修を始めることもできる。主なローテーションパターンについて、別紙1示す。

5) 研修の週間スケジュール・年間スケジュール
別紙2に示す。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

- 委員長 医師 中村 祐
- 医師：村田 昇
- 医師：市川 正浩
- 医師：馬場 信二
- 医師：内海 剛聡
- 医師：松岡 美穂
- 医師：佐藤 仁
- 医師：川田 浩
- 医師：伊藤 嘉信
- 医師：中土井 芳弘
- 医師：大塚 智丈
- 医師：奥平 篤之
- 医師：吉田 穂束
- 医師：辻 健三
- 看護師：森田 伸子
- 臨床心理士：篠原 朝美

・プログラム統括責任者

中村 祐

・連携施設における委員会組織

各連携病院の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

香川大学病院：中村 祐
小豆島病院：村田 昇
三光病院：市川 正浩
馬場病院：馬場 信二
いわき病院：松岡 美穂

こころの医療センター五色台　：佐藤　仁
三船病院　　：川田　浩
丸亀病院　　：伊藤　嘉信
四国こどもとおとなの医療センター：中土井　芳弘
西香川病院　：大塚　智丈
永康病院　　：奥平　篤之
大西病院　　：吉田　穂束
清水病院　　：辻　健三

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

香川大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の

研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備（労務管理）

基幹施設の就業規則は以下のとおりである。

勤務時間 日勤帯 8：30～17：15（実働8時間）

当直帯 17：15～ 8：30

（当番でのオンコール体制、手当あり、上級医のバックアップあり）

休日 ①日曜日 ②土曜日 ③国民の祝日 ④法人が指定した日

その他に年次有給休暇（初年度10）、夏季休暇（3日）、慶弔休暇、産前産後休暇、介護休業、育児休業などがある。

連携施設においては各施設が独自に定めた就業規則に則って勤務するが、原則として日勤帯の勤務時間は8時間である。当直業務は週1回程度で別途対価が支払われる。

全施設において、日本精神神経学会総会、同地方会等の学会への出席には交通費を研修中の施設より支給する。

2) 専攻医の心身の健康管理

安全衛生管理規定に基づいて年1回の健康診断を実施する。

検診の内容は別に規定する。

産業医による心身の健康管理を実施し異常の早期発見に努める。

指導医は研修状況を確認すると同時に専攻医の健康状態にも留意する。

3) 専攻医による指導医および研修プログラムに対する評価とプログラムの改善・改良

専攻医は定期的に指導医と研修状況を確認するが、その際に、研修プログラムや研修環境についても意見交換する。専攻医から得られた研修プログラムならびに指導医に対する評価表はプログラム管理委員会に直接提出することとし、専攻医の指導医に対する評価が専攻医の不利とならないようにプログラム統括責任者は配慮する。

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者によるプログラム管理委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FDの計画・実施

プログラム管理委員会が主導し、年1回程度以上、各施設の研修指導医に対し、FDを行い研修指導医の教育能力や評価能力を高める。その際に研修全体について見返りも行う。

以上

別紙1

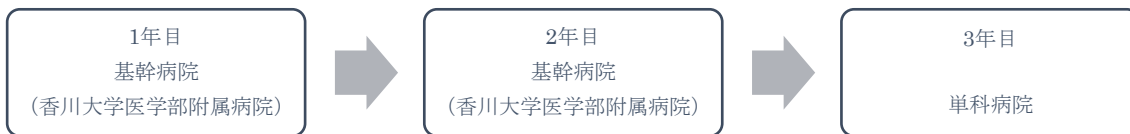
ローテーションの例
(パターンA)



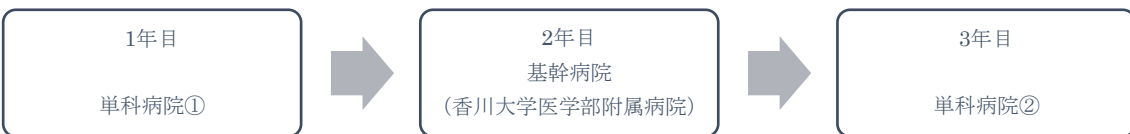
(パターンB)



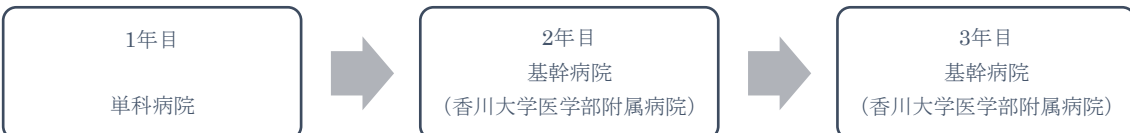
(パターンC)



(パターンD)



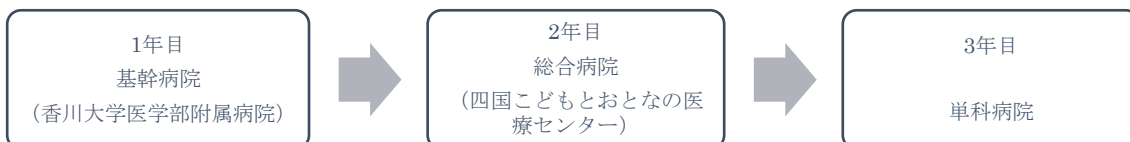
(パターンE)



(パターンF)



(パターンG)



基幹病院、単科病院、総合病院を軸として精神科専門研修を行う。

当プログラムは多彩な連携施設群で構成されており、上記以外にも専攻医のニーズに応じて様々なプログラム、ローテーションを用意することが可能である。

週間スケジュール

・基幹施設

香川大学病院（例）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-12:00	外来予診担当	病棟担当	カンファレンス	往診担当	外来診察
13:00-17:15	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

※外来診察は研修開始数カ月後から担当する。曜日は一例である。

※いずれの施設においても、就業時間が40時間/週を超える場合は、専攻医との合意の上で実施される。原則として、40時間/週を超えるスケジュールについては自由参加とする。

・連携施設

①小豆島病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:00-17:30	病棟業務	病棟業務 病棟カンファレンス	病棟業務 医局カンファレンス	病棟業務	病棟業務

②三光病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
09:00-12:00	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察
13:10-17:00	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	
17:00-19:00	サラリーマン ン外来					
断酒会	毎週 13:15-15:15 院内断酒会		第4週のみ 18:00-20:00 初診者例会	毎週 12:30-14:30 院内断酒会		
				第1週のみ 14:30-15:30		
				第2週のみ 18:00-20:00		

③馬場病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-09:00	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス
09:00-12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:00-15:00	病棟診察	外来業務	デイケア	病棟診察	病棟診察
15:00-17:30	病棟診察	病棟診察	施設見学	病棟診察	病棟診察

④いわき病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-10:00	重度認知症デイケア	外来(院長)	外来 (認知症鑑別)	担当症例検討会	外来(院長)
10:00-12:30	医療面接・診断と治療 講義(院長)	チーム医療講義 病床管理会議	外来 (認知症鑑別)	精神科デイケア 診察	外来(院長)
13:30-15:30	認知症病棟診察	重度認知症デイ ケア	外来 (認知症鑑別)	認知症病棟診察	精神科病棟診察
15:30-17:30	担当患者診察	担当患者診察	精神科療養病床 診察	担当患者診察	精神保健福祉法 講義

⑤こころの医療センター五色台

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	
8:30 12:30	1 週 目	院長外来陪席	全体会議 行動制限最小化 委員会 副院長外来陪席		全体会議 医療安全対策カンファ レンス委員会 副院長外来陪席	全体会議 指導医外来陪席	
	2 週 目	全体会議 外来業務 (外来 DNC 患者 診察)	全体会議 行動制限最小化 委員会 集団精神療法		医局会 全体会議 院長回診同行(急 性期病棟) 副院長外来陪席	全体会議 医療安全対策カンファ レンス委員会	全体会議 SST 見学
	3 週 目						
	4 週 目						
13:30 17:30	1 週 目	院内案内 入院患者診察 (指導医同席)	ECT 治療陪席 講義	医局カンファレンス ECT 倫理委員会 入院患者ケース会 議	病棟業務 講義	指導医との面談 (症例の検討)	
	2 週 目	入院患者診察 (指導医同席)					
	3 週 目	ECT 治療陪席 集団精神療法詳 読会	病棟業務 断酒会				
	4 週 目	ECT 治療陪席 集団精神療法詳 読会	病棟業務 DNC 患者ケア会 議				

⑥三船病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
08:30-12:00	外来業務	病棟業務	病棟業務	外来業務	mECT(任意)	
13:00-17:30	mECT(任意)	病棟業務	勉強会 病棟業務	デイケア	医局会・症例 検討会 病棟業務	

出勤：週5日

当直：週1回程度（精神科救急夜間当番病院です[輪番制]）

⑦丸亀病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-08:50	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス
08:50-12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:00-14:00	急性期病棟カンファ	病棟業務	県立中央病院 リエゾン	病棟業務	病棟業務
14:00-17:30	病棟業務	医局カンファ			

⑧四国こどもとおとなの医療センター

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-09:00	管理診療会議		行動制限最小 化委員会		
09:00-12:00	発達検査 外来新患	外来再診	発達検査 外来新患	病棟カンファレンス リエゾン	発達検査 外来新患
13:00-15:30	外来再診	外来再診	外来再診	1歳半・3歳 児検診 緩和ケア	外来再診
15:30-17:30	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察

月1回 リスクマネジメント部会・病院ラウンドに参加（第3水曜日午後）

⑨西香川病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	
08:30-09:30	外来業務(新患)	外来業務(再診)	病棟業務	外来業務(新患)	外来業務(再診)	
09:30-12:00	病棟業務		認知症ケア	病棟業務		
13:00-14:00	入退院カンファ	病棟業務	入退院カンファ	病棟業務	入退院カンファ	
14:00-15:00	病棟業務		認知症連携ミーティング		病棟業務	病棟業務
15:00-17:30			病棟業務			

⑩永康病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-12:00	病棟業務	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務
13:00-17:15	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	カンファレンス

⑪大西病院

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
08:30-12:00	外来業務 病棟診察	外来業務 病棟診察	外来業務 病棟診察	外来業務 病棟診察	外来業務 病棟診察
13:00-17:15	外来業務 病棟診察	外来業務 病棟診察	病棟診察	外来業務 病棟診察	病棟診察

⑫清水病院 (週 5 日勤務)

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜
09:00-12:30	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察
13:30-17:00	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	外来診察 病棟診察	
断酒会		第 2 火曜 18:00-20:00			毎週 10:00-11:00	

年間スケジュール

・基幹施設

香川大学

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	四国4大学研修会参加
10月	
11月	中国四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

・連携施設

①小豆島病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	日本司法精神学会参加(任意)
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本うつ病学会参加
8月	
9月	四国4大学研修会参加
10月	日本認知症学会参加、日本児童青年精神医学会参加(任意)
11月	中国四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	日本不安症学会参加(任意)
3月	研修プログラム評価報告書作成

②三光病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	四国4大学研修会参加
10月	
11月	中国四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

※他に県内精神科集団会・アルコールや薬物等の学会(研修会)

③馬場病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	児童施設見学
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	デイケア参加、断酒会参加
8月	刑務所見学
9月	四国4大学研修会参加
10月	精神科病院対抗ソフトバレーボール大会参加
11月	中国四国精神神経学会演題発表
12月	クリスマス会参加
1月	訪問看護参加
2月	老人施設見学
3月	研修プログラム評価報告書作成

④いわき病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	院内学習事例検討会・演題発表
9月	四国4大学研修会参加、SST学術集会参加
10月	日本認知・行動療法学会参加
11月	中国四国精神神経学会演題発表、認知症ケア研修参加
12月	
1月	認知症疾患医療センター会議参加
2月	アルコール薬物関連勉強会参加
3月	地域精神科医療連携体制推進協議会・事例検討部会参加 研修プログラム評価報告書作成

⑤こころの医療センター五色台

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	四国4大学研修会参加
10月	
11月	中国四国精神神経学会演題発表、 日本精神科医学会参加
12月	
1月	精神保健福祉業務研修会
2月	
3月	集団精神療法学会参加、五色会研究発表 研修プログラム評価報告書作成

⑥三船病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション、エッセンスカンファレンス
5月	教室研究会参加、県精神科集談会参加、エッセンスカンファレンス
6月	日本精神神経学会学術総会参加、日本老年医学会参加(任意)
7月	中国六大学研修会参加、日本うつ病学会参加(任意)
8月	院内教育プログラム
9月	県精神科集談会参加、脳波懇話会参加、 四国四大学精神科研修会参加 精神身体合併症研究会参加・演題発表 日本生物学的精神医学会参加(任意)
10月	教室研究会参加、脳波懇話会参加、日本児童青年医学会参加(任意)
11月	日本臨床精神神経薬理学会参加(任意) 中国四国精神神経学会参加・演題発表 脳波懇話会参加・演題発表
12月	脳波懇話会参加
1月	県精神科集談会参加
2月	院内教育プログラム
3月	研修プログラム評価報告書作成 精神身体合併症研究会参加・演題発表 日本統合失調症学会参加(任意)

各種団体主催のアルコール症、認知症、児童・思春期精神医学等の研修会に参加

⑦丸亀病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加、日本老年医学会参加(任意)
7月	
8月	
9月	四国4大学精神科研修会参加
10月	
11月	中国四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	総括的評価、研修プログラム評価報告書作成

⑧四国こどもとおとなの医療センター

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 養護学校修学旅行引率(中学校)
7月	
8月	JPSS セミナー参加
9月	四国4大学研修会参加
10月	日本児童青年精神医学会総会参加 養護学校修学旅行引率(小学校・高校)
11月	香川小児精神医学研究会参加 中国四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	全国児童青年精神医療施設協議会参加・演題発表 JPSS 大会参加 児童精神医学研修
3月	研修プログラム評価報告書作成

⑨西香川病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	認知症住民啓発講演会開催
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	認知症かかりつけ医研修会
8月	
9月	四国4大学研修会参加 認知症疾患医療センター研修会開催
10月	
11月	中国四国精神神経学会参加、日本認知症学会学術集会参加(任意)
12月	
1月	
2月	認知症疾患医療センター研修会開催
3月	認知症かかりつけ医研修会、研修プログラム評価報告書作成

⑩永康病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	四国4大学研修会参加
10月	
11月	中国四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

⑪大西病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本うつ病学会参加
8月	
9月	四国4大学研修会参加
10月	日本児童青年精神医学会総会参加
11月	中国四国精神神経学会参加、日本認知症学会学術集会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

⑫清水病院

月	行事予定
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	四国4大学研修会参加
10月	
11月	中国四国精神神経学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書作成

※県内精神科集団会・アルコールや薬物・認知症等の学会(研修会)